

「日々の理科」(第2097号) 2020,-4,-6
「この子どもたちにしてあげられること(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

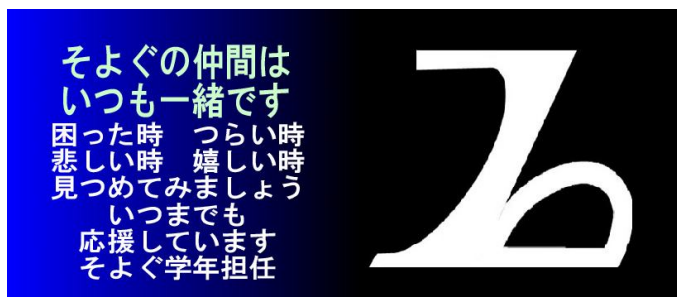
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「光るキーホルダー」用の「蓄光素材」は完璧なものが入手できた。これをどのように「学年マークの形に光らせるか」というのが大問題だ。



キーホルダーに入れるカードは、古い切符と同じサイズで、縦25mm、横57.5mm、厚さ1mm程度だ。表の制作は簡単で、このようなデザインにした。



いろいろ考えた末、裏はインクジェットプリンター用の透明剤付き粘着シートに印刷することにした。学年マークの周囲を黒くして、マークの部分だけ光が当たるようにという工夫だ。



これを1シートに40枚印刷した。まずは裏側(粘着面)を上に向けて机の上に置く。これが意外と難しい。周囲をテープで「仮止め」して作業をしやくすした。



次に、学年マークの部分に蓄光テープを慎重に貼る。高価なテープなので、全面には貼れないので、マーク部分だけに貼ることにした。



このままだとテープを貼っていない箇所が凹むので、厚紙を細長く切って、「スペーサー」とした。



これが貼り終わって、1シート40面が完成したところ。卒業生は109人なので、これを3シート作った。本校では「学年協力担任制」という制度をとっている。「6年1組担任」であると同時に「6年全体の担任」という意識が強い。こうした記念品も「自分のクラス分だけ」というのはあり得ない。作るなら学年全員分である。それも、絶対に不良品を出してはいけない。